大雪山の火山活動解説資料（令和８年10月）

札　幌　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１、図２-①～③、図３）

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上200m以下で経過しました。引き続き噴気活動は低調な状態で推移しています。

・地震及び微動の発生状況（図２-④）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。
火山性微動は観測されていません。



図１　大雪山　西側から見た旭岳の状況（忠別湖東監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』、『基盤地図情報』を使用しています。
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。

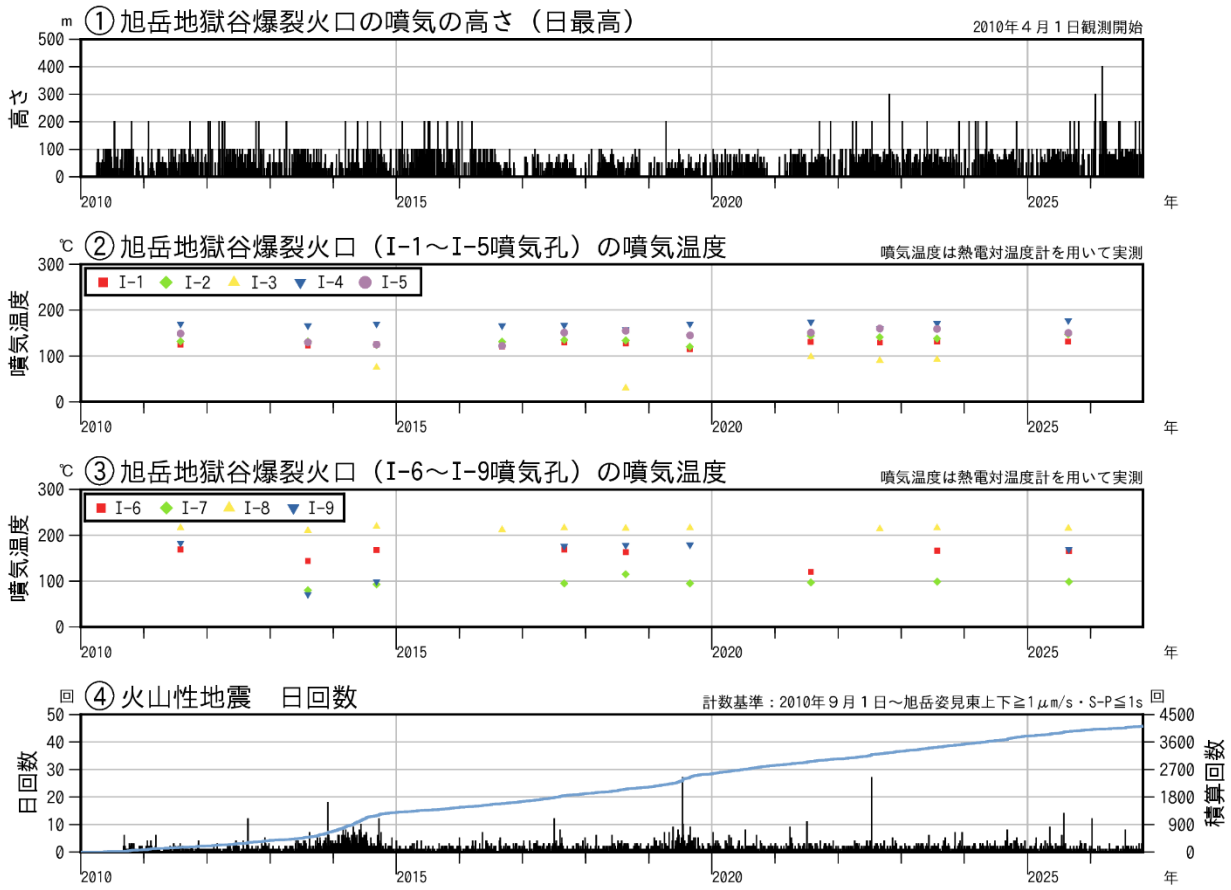


図２　大雪山　火山活動経過図（2010 年４月～2026 年 10 月）

②③の噴気温度の測定位置は、図３（噴気孔の位置図）を参照してください。

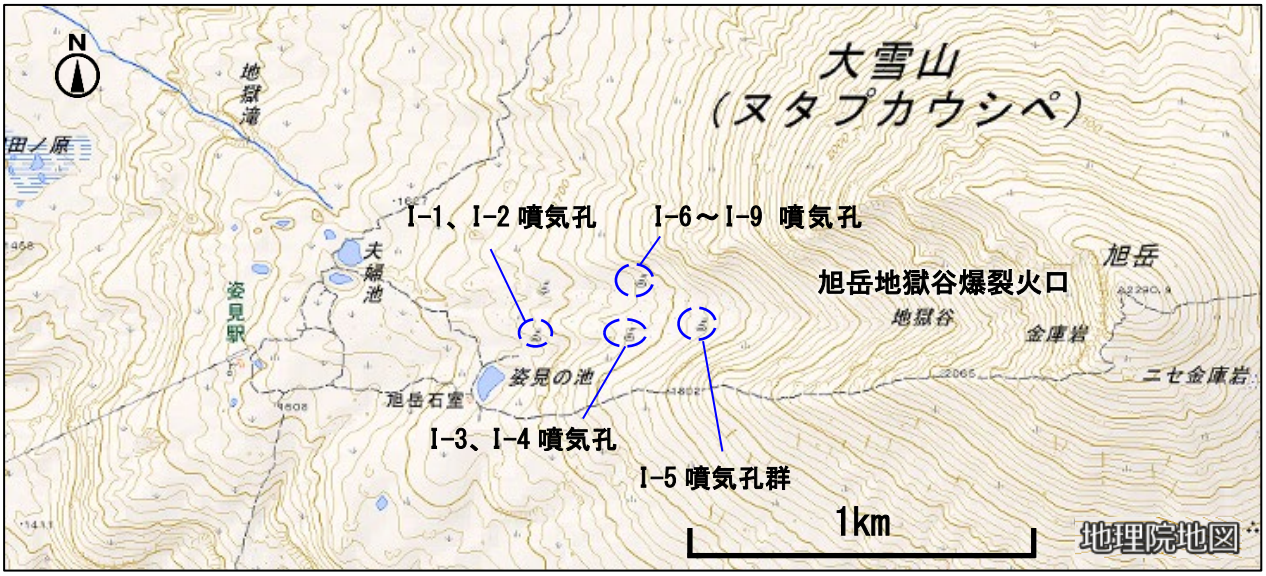
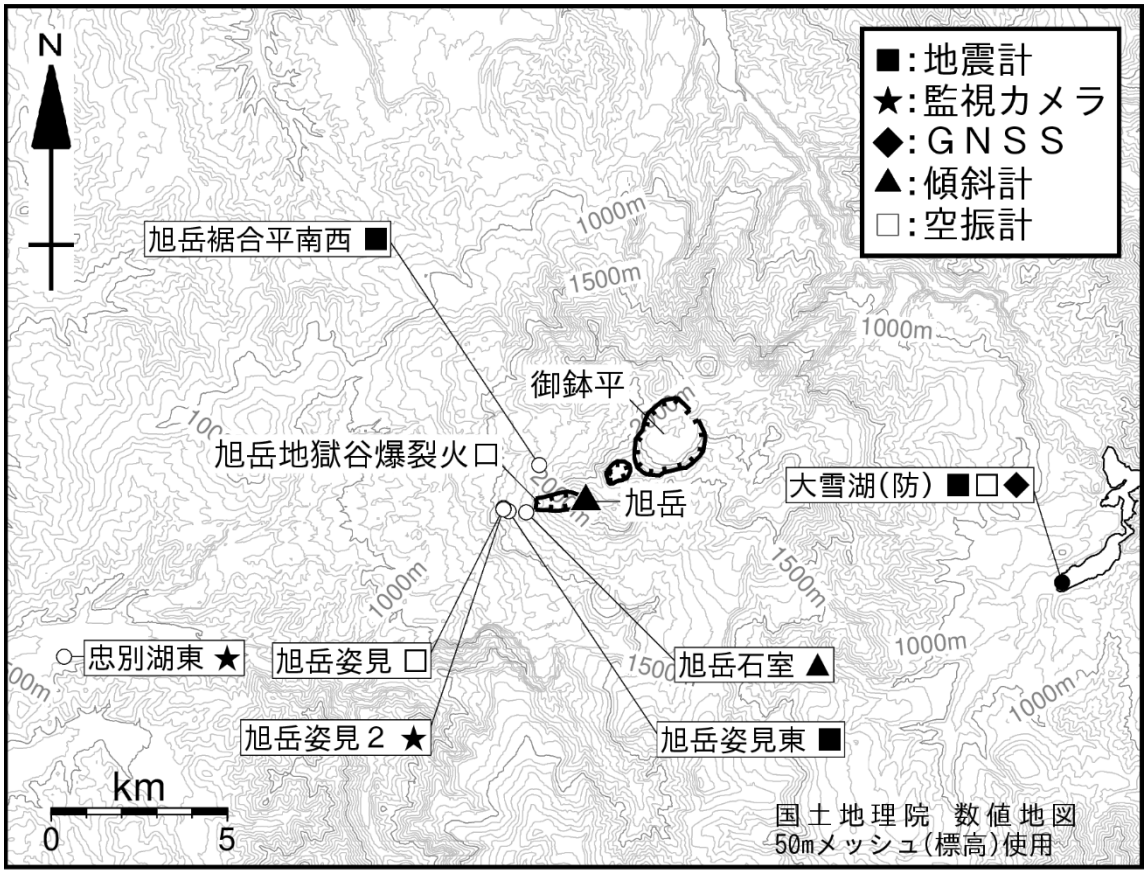


図３　大雪山　旭岳地獄谷爆裂火口内の噴気孔の位置（破線囲み）



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。
(防):国立研究開発法人防災科学技術研究所

図４　大雪山　観測点配置図